

山形県川西町

K-855

道 伝 遺 跡

第3次重要遺跡確認調査概報

1983

川西町教育委員会

序

道伝遺跡発掘を契機に、川西町文化財保護協会が設立され、会員800人を超す盛況を示しているが、町民の文化財に対する理解と愛情の深さに驚きと同時に敬意を表するものである。そして今年度早速保護協会会員を含めた道伝遺跡発掘町民参加のつどいを実施することが出来た。このような状況の中で、本年度実施した道伝遺跡三年目の最後の調査概要を出すことの出来ることは、誠に喜びにたえません。

本年度の調査は、県文化課並びに諸先生方のご指導を受けながら、土壘の断面の平面実測と中心部周辺の調査並びに溝部の伸びの把握についての調査を主として実施した。

その結果特に奈良末期と推定される建物跡や井戸枠などもそのままの跡が二基発見されており、更に二面鏡や横瓶等が検出されたことは、今回の発掘の大きな収穫と考えられる。従って単なる集落跡ではなく、公的な官衙跡と推定される根拠が更に濃くなって来ている。然し今回も全体的な遺構の確認を得るまでには至らなかったが、今後の課題としておこなわれなければならないと考えている。

本調査にあたって、四年間も継続してご協力ご支援いただいた地元地権者の方々、並びにこの調査についてご指導ご援助下さった、文化庁・県文化課・山形県考古学会・宮城県多賀城跡調査研究所その他諸先生方並びにご協力下さった方々に対して、感謝とお礼を申しあげます。特に柏倉先生には、何回も足を運んでご指導をいただき、誠に有難く心からお礼を申しあげます。

又この報告書は、町嘱託藤田宥宣氏・調査補助員月山隆弘氏のご努力によるもので、深甚なる謝意を表します。

本報告書が、埋蔵文化財に対する理解と愛情を深め、その保護普及の一助になれば幸いと存じます。

昭和58年3月

川西町教育委員会

教育長 笹木勝政

目 次

序

目 次

調査要項

本 文

I 遺跡の概要	1.前年までの調査	2.調査地選定	1	
II 調査経過	調査日誌	3	
III 発見された遺構	1.建物跡	2.井戸跡	3.溝 跡	10
	4.その他の遺構				
IV 考 察	25

挿 図

第 1 図	道伝遺跡グリット配図	2
第 2 図	調査地周辺遺構図	9
第 3 図	S B 14・15 挖立柱建物跡	11
第 4 図	S B 16・17・18・19・22 挖立柱建物跡	12 ~ 13
第 5 図	S B 21 挖立柱建物跡	15
第 6 図	S B 20 挖立柱建物跡	16
第 7 図	井戸実測・断面図	18 ~ 19
第 8 図	G 47 ~ 55 - 55 ~ 60 実測図	21
第 9 図	溝跡実測・断面図	22 ~ 23
第 10 図	土壘状遺構実測・断面図	24

図 版

第1図版	1.発掘前風景	2.発掘風景	3.土壘全景	
第2図版	1.土壘断面図	2.G 47 ~ 55 - 55 ~ 56	3.S D 29・30・37 プラン確認	
第3図版	1.S B 14・15 烟立柱庫物	2.S B 16~19 プラン確認		
	3.S B 16~19 挖立柱建物跡			
第4図版	1.S B 21 挖立柱建物跡	2.E B 193	3.E B 193断面図	
第5図版	1.S E 1 プラン確認	2.S E 1 井桁	3.S E 1 覆土断面図	
第6図版	1.S E 2 プラン確認	2.S E 2 井桁	3.S E 2 覆土断面図	
第7図版	1.S D 35 土製品出土状況	2.S D 35 木質遺物出土状況		
	3.S D 35 覆土セクション			

調査要項

1. 遺跡名 道伝遺跡
2. 所在地 山形県東置賜郡川西町大字下小松字道伝前(他)
3. 調査期間 昭和57年4月7日～同年11月18日
4. 調査主体 川西町教育委員会
5. 調査協力 山形県教育庁文化課・川西町文化財保護協会
6. 特別調査員 柏倉亮吉・工藤定雄・加藤 権・平川 南・佐藤鎮雄・手塚 孝
橋爪 健
7. 調査協力委員 五十嵐不二雄・井上昌平・石田四郎右衛門・石田東一・小原久助
小関寿郎・竹田源右衛門
8. 調査主任 藤田宥宣
9. 調査員 月山隆弘・高橋宏平・藏田順治・竹田又右衛門
10. 事務局 川西町教育委員会 社会教育課
工藤盛光・佐藤 肇・船山エイ
11. 調査協力 横山栄一・藤倉徳夫・高橋啓一・渡辺豫二・佐藤嘉広・船橋理佐子
平田東助・高橋寅雄・勝見 学・石田志朗・遠藤 孝・佐藤正博
奥村久一・奥村義昭・東海枝園蔵・本間さわ・船山悦子
平田美代子・遠藤とも子・奥村多美子・鈴木信子
置賜農業高等学校
12. 地権者 東海枝園蔵・船山顕一郎

例 言

1. この概報は、川西町教育委員会が昭和57年度に行なった、第3次重要遺跡確認調査の発掘調査概報である。
2. 掘図縮尺は、それぞれにスケールを示し、遺構の覆土はFによって表わした。
3. 土色は「標準土色帖」農林省農林水産技術会議事務局監修を活用した。
4. 発掘調査概報の作成は、藤田・月山が担当し、藤田が執筆した。実測図及びトレース作成は月山が担当し、写真撮影は両名で行った。

I 遺跡の概要

1 前年までの調査

昭和 10 年 11 月 15 日

山形高校教授、安藤徹氏が 6 本の柱根を発見しその内の 4 本は 2.6 m の等間隔で南北を示すことと、柱根の直径は 34 cm、長さ 58 cm の杉材であることが確認された。

昭和 53 年 4 月 30 日

第 1 回予備調査、川西町教育委員会が主体となり、2 本の柱根と須恵器片を検出する。

昭和 53 年 10 月 27 日

第 2 回予備調査、川西町教育委員会が県文化課の協力をえて、柱根と須恵器片を検出し遺跡面積が 23, 625 m² の平安時代集落跡と判定した。

昭和 54 年 5 月 1 日～5 月 30 日

第 3 回予備調査、川西町教育委員会が、ボーリング探査と試掘を行い、遺跡は 120, 000 m² であることが確認され、遺跡を包括する 160, 000 m² の 500 分の 1 の地図を置賜農業高校に協力をえて作成する。

昭和 54 年 6 月 1 日～8 月 28 日

緊急発掘調査、昭和 10 年に発見された柱根は 3 間 × 7 間の 2 面廊の掘立建物であることが判明し、掘立柱建物跡 8 棟、大溝より、墨書き土器 93 点、木簡 5 点、杵、鍤、櫛、盆、曲げ物等が検出された。木簡の墨書き内容により置賜郡衙跡の可能性が強まり、下部構造の構成と遺跡範囲を把握するため園場整備で削除された田面にもう一度覆土をなし、次年度より 3~4 年の計画で発掘調査を行うことになる。調査面積は 3, 285 m² である。

昭和 55 年 6 月 2 日～10 月 3 日

第 1 次重要遺跡確認調査、掘立柱建物跡 2 棟、大溝 2 条 (SD 1 コーナー部の検出) 木碗類、墨書き土器、曲げ物等を検出し精査面積は 1, 140 m² である。この年にベンチマーク B M 1 (G 25 - 75, 標高 213. 85 m) を作成する。

昭和 56 年 6 月 1 日～11 月 18 日

第 2 次重要遺跡確認調査、掘立柱建物跡 2 棟、SD 1 と異なる池状の溝跡より墨書き土器 20 点、木製品として木簡、絵馬、斎串、曲げ物、多量の木製品等が検出された。特に絵馬は東日本最古のもので、横 13 cm × 縦 8 cm の板材に墨書きの方形絵馬で紐穴はみられない。また同層より斎串と完全な形の須恵器環と蓋が検出されたことにより、一種の祭事形態を確認できた。この年の調査面積は 638 m² である。

2 調査地の選定

今年度の調査地選定にあたり、昨年度（昭和 56 年）11 月 2 日の現地説明会の後、特別調査委員・遺跡協力員・調査員による調査検討会の中で、平川南氏により、SD 1 (木簡出土地) 周辺を発掘すればある程度の見解を出せるのではないかと云う意見と、柏原亮吉氏は SD 1 の層位確認と下層の建物跡の検出が必要と発言された。また、12 月 7 日県文化課、佐々木係長、文化庁技官、浪貝調査官の指導により、第 1 に土星の断面を平面実測することと、第 2 に中心部 SD 1 周辺の調査、第 3 に SD 1 の推定区域をつかみ溝の伸び方を把握することの 3 点の指示を受け、この指導をもとに調査計画及び調査地選定をするに至ったものである。



第 1 図 道伝遺跡グリッド配図

I 調査経過

第3次重要遺跡確認調査は、昭和57年4月7日より、同年11月18日まで行ない、4月7日より4月28日まで遺跡西側を中心とした分布調査と木簡を発見した大溝等のボーリング探査を行った。5～6月は遺跡西側にある土壘の調査、7月から11月まで遺跡中心部の調査を行ない、調査面積は1,555.9m²である。以下調査日誌をもとに経過をたどることにする。

調査日誌

一過伝遺跡西側分布確認調査・大溝ボーリング確認調査	G 105～80 摂乱され検出不能。4m ²
4月7日(水) 晴のち曇り	ボーリング探査にて大溝S D 1調査。
G 135～10 大溝跡と思われるが溝方向がつかめない。出土遺物なし。	4月21日(木) 曇りのち晴 ボーリング探査にて大溝S D 6が75mの方形に廻る溝であることが確認された。
確認面積8.5m ²	
4月9日(金) 曇りのち雨	4月22日(土) 曇りのち晴 大溝S D 1・6 平面実測。
G 115～25 第II層下でP 2基礎認、出土遺物なし。6.54m ²	4月23日(日) 晴
G 125～35 出土遺物なし。3.44m ²	G 135～75 第II層下にてP 11基礎認められる。14m ²
4月12日(月) 曇りのち雨	4月26日(木) 晴
G 165～40 出土遺物なし。2m ²	ボーリング探査にて大溝S D 1が、昭和55年度調査地より、北西の方向に150m確認された。
4月13日(火) 晴	4月28日(木) 晴
G 165～105 第III下でP 7基確認。その内5基は間隔が1.35m等間で柱痕と考えられる。22.4m ²	ボーリング探査にて大溝S D 1が、昭和55年度調査地より、北西の方向に150m確認された。
G 150～110 出土遺物なし。3m ²	4月28日(木) 晴
4月14日(金) 晴	ボーリング探査。
G 180～130 出土遺物なし。2.83m ²	一過伝遺跡G 134～136～78～82 地区調査－
G 155～110 出土遺物なし。1.14m ²	5月13日(木) 晴
G 175～150 第II層下にてP 2基確認。4.74m ²	鉛入式、基準杭打ち。
G 145～145 第II層下にてP 4基確認、土師器片、須恵器环が検出された。2.4m ²	5月28日(火) 晴

調査地のグリット配図作成。

5月31日(月) 晴

G 128～78, 粗掘、面整理P・RP 1検出。

6月1日(火)

G 128～78, 實測、埋め戻し。

6月4日(金) 晴

G 79～82～133～136, 粗掘、面整理。

6月5日(土) 晴

S D 28 掘り下げ。

6月7日(月) 晴のち雨

S D 28 F 1・2 掘り下げ、RP 2～6 検出。G 47～55～45～60, 面整理。G 71～73～47～54, S D 28 検出。

6月8日(火) 晴

7月1日(火) 曇り

G 61～65～54～60, G 71～73～46～62, 重機にて表土剝離。

7月2日(水) 晴

S D 28 掘り下げ。

7月3日(木) 晴

6月9日(水) 晴

グリット杭打ち、給水作業。

土壘断面図実測、写真撮影。

7月4日(金) 晴

6月10日(木) 晴

G 71～73～47～54, 排水作業。

S D 28 セクション図、平面実測、埋め戻し。

7月5日(土) 晴

6月11日(金) 晴

G 71～73～47～54, 排水作業、面整理、精査。G 51～53, S E 1 ブラン確認。

埋め戻し。

7月6日(日) 晴

6月12日(土) 晴

埋め戻し完了、遺物洗浄。

6月14日(月) 雨

G 71～73～47～54, G 47～54～53～54, 面整理。

G 79～82～133～136, 図面整理、

7月7日(火) 曇りのち雨

遺物整理。35.5m²

G 71～73～55～62, 面整理。S D 29

一過伝遺跡G 45～75～43～79 地

・30・37 ブラン確認、S D 29より土錐(R P 8) 検出。

区調査－

6月22日(火) 晴

G 47～55～45～54, 面整理。

G 45～75～43～79, 1/200 平面実測

7月8日(木) 晴

ボーリング探査、試掘。

G 71～73～55～62・G 62～66～53

6月28日(木) 曇り時々雨

60・G 47～55～45～55, 面整理。

杭打ち作業、排水溝掘り。

7月9日(金) 曇のち曇り

6月29日(土) 晴

G 62～66～53～60, 面整理。

E B 20 基あまりプラン確認。

7月11日(日) 晴

県文化課佐藤庄一氏調査指導のため視察

7月12日(月) 雨のち晴

排水作業。

7月13日(火) 雨のち晴

G 47～55～45～55, 面整理。

7月14日(水) 晴

G 47～55～45～55, 面整理。

SE 1 プラン写真撮影, 町小学校教諭視察。

7月15日(木) 晴

G 62～66～54～60, 面整理。

S B 14・15 検出, 写真撮影。

7月16日(金) 曇り

G 62～66～53～60, SD 29・30・

37 機構掘り下げ。G 62～66～53～60,

実測。

7月19日(月) 曇り

G 62～66～53～60, 邊構掘り下げ。

RP 2～5 検出, 実測。G 62～66～53

～60, 実測。

7月20日(火) 曇り

G 47～55～45～55, 面整理。

SD 29, 30 セクション実測。

7月21日(水) 曇り

G 47～55～45～55, SD 35 掘り下げ。

7月22日(木) 晴のち曇り

SD 35 F 1 下層より SE 2 確認,

RP 31～55 検出。

7月23日(金) 晴

G 47～51, SE 2 面整理。

7月26日(月) 雨

町民参加による発掘調査準備。

7月27日(火) 雨のち曇り

町民参加による発掘調査資料作成。

7月28日(水) 曇りのち晴

排水作業, SE 1 掘り下げ井手検出。

7月29日(木) 曇り

SE 1 掘り下げ, 炭化木 5 枚検出。

7月30日(金) 快晴

G 62～66～46～53, 面整理。

SD 32 掘り下げ。SE 1 掘り下げ。

8月2日(土) 曇り

G 62～66～46～53, 面整理。

SE 1 埋土 F 1～3 をふるいにかける。

8月3日(日) 曇り

G 63～69～75～76, 調査地括張, 粗泥。

SD 35 掘り下げ。

8月5日(火) 晴

G 47～55～56～60, 面整理。

SD 35 掘り下げ。

8月6日(水) 晴

G 47～55～56～60, 面整理。

SD 35 掘り下げ, RW 3 横構検出。SB 14

・15 東側調査括張。

8月7日(木) 晴

SD 35 掘り下げ, 植子検出。

8月8日(金) 晴

「道伝遺跡発掘調査町民参加の集い」

80名参加。

8月9日(土) 晴

SD 35, 遺物取り上げ。

8月10日(日) 晴

SE 2 セクション実測, SD 35 R P 125

～143 検出。

愛知大学佐野賀治助教授視察。

8月11日(月) 曇り

SE 2 埋土取り上げ。

8月17日(火) 晴のち曇り

SE 2 出土遺物整理。

8月18日(水) 晴時々雨

SE 2 最下層玉石取り上げ。

8月19日(木) 晴

排水作業, 遺物洗浄。

8月20日(金) 晴

G 56～59～53～57, 調査地括張区粗泥,

遺物洗浄。SE 1 埋土ふるいにかける。

8月21日(土) 曇り

遺物ネーミング。

8月23日(月) 曇り

G 56～59～53～62, 粗泥, EB 数基礎認。

35 検出。

8月24日(火) 晴

粗泥, ネーミング。

8月25日(水) 曇り

SK 47 掘り下げ。

G 56～59～53～57, 面整理。

8月26日(木) 晴

G 56～59～53～57, 面整理。

8月27日(金) 曇り

G 60～54～62, 粗泥, 面整理。

8月28日(土) 晴のち曇り

遺物整理。

8月30日(月) 晴のち雷雨

G 46～55～45～55, 実測, 遺物整理。

8月1日(火) 晴

G 57～60～60～62, 粗泥。

SE 1 掘り下げ, 最下層に曲げ物 RW 58

検出。

8月2日(水) 晴

G 57～60～60～62, 粗泥。

SE 1 埋土最下層土ふるいにかける。

8月3日(木) 曇りのち雨

遺物整理。

8月4日(金) 晴

遺物整理。

8月6日(日) 曇り

SD 35 掘り下げ, 遺物整理。

8月7日(月) 曙り

SD 35 掘り下げ, RP 251～271, RW

30～34 検出。

8月8日(火) 晴

SD 35 掘り下げ, RP 272～275, RW

35 検出。

8月9日(水) 雨

遺物洗浄, 遺物整理。

8月10日(木) 雨のち曇り

遺物整理。

8月11日(金) 雨のち曇り

排水作業, RP 272～278 検出, 遺物洗浄

8月13日(日) 雨のち曇り

排水作業, 遺物整理。

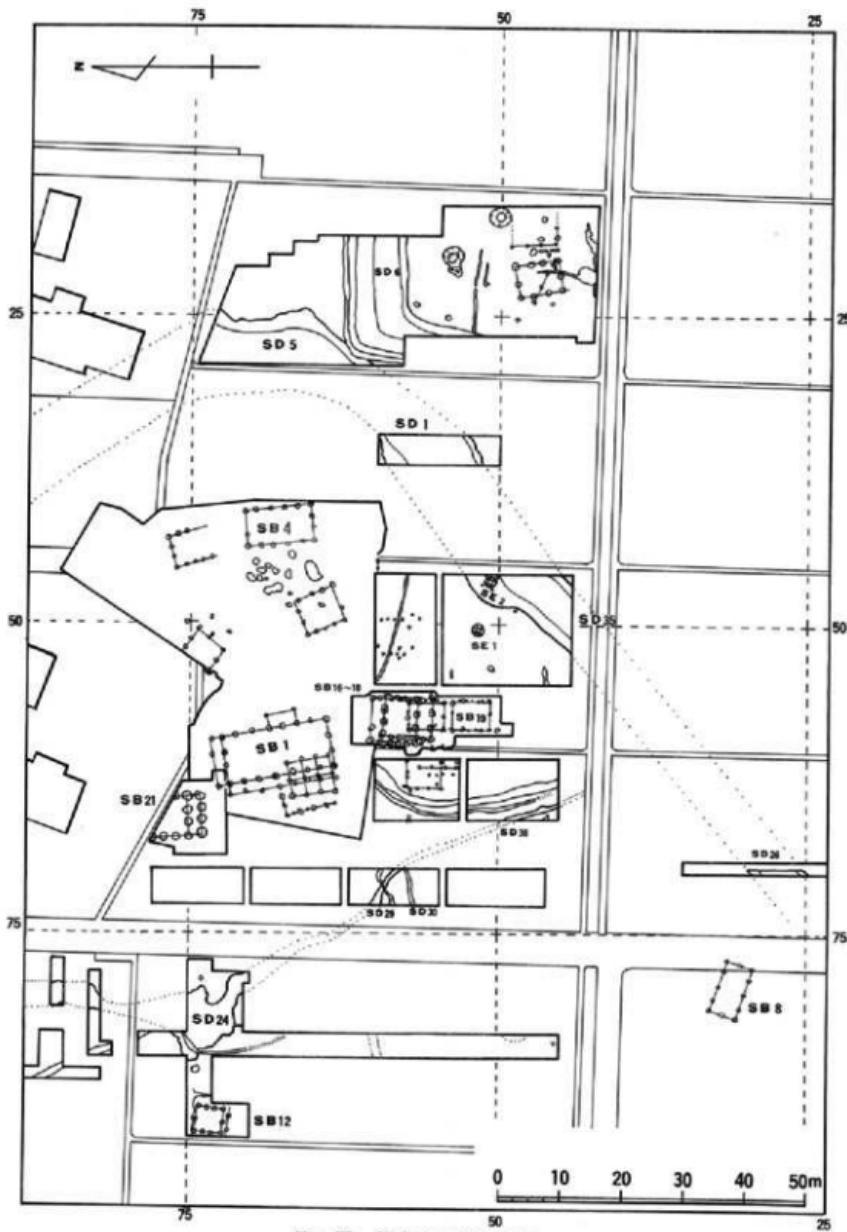
8月14日(月) 曙り

排水作業, 遺物整理, SE 1 埋土 F 3・4

の土をふるいにかける。

8月16日(火) 晴

G 56～60～50～62, 面整理。	9月27日(月) 曇り	10月12日(火) 晴	S E 2 井戸側取り上げ。RW 62 换出。
9月17日(金) 晴	G 56～60～50～62, 実測, S D 35 振り下げる, RW 41, R P 317 檢出。	10月27日(水) 晴	S E 2 井戸側取り上げ。S D 35 振り下げる, R P 401～408, RW 62, 70～74 檢出。
G 56～60～52～62, S B 16・17・18・19 を確認する。	9月28日(木) 晴	10月28日(木) 晴	S E 2 井戸側, 敷き石取り上げ。
9月18日(土) 晴	S D 35 振り下げる, R P 320～323, RW 42～44, 縦幅検出。	10月13日(火) 晴	S D 35 振り下げる, R P 369～372, RW 48 檢出。
S D 35 振り下げる, R P 282～292, RW 36, 横幅状木製品検出。	9月29日(金) 小雨	10月14日(水) 晴	S D 35 振り下げる, R P 425～439, RW 75・76 檢出。
G 57～59～49～51, E B 200～202 檢出。	G 56～60～50～62, 実測。	10月15日(木) 晴	11月1日(月) 曇りのち雨
9月21日(土) 雨のち曇り	S D 35 振り下げる, R P 342 二面観検出。	S D 35 振り下げる, R P 373～386, RW 49～56 檢出, 縦幅状木製品, 檻片検出, S E 1 西側振り下げる。	S D 35 振り下げる。埋め戻し準備。
G 47～55～56～60, 56～60～50～62, 面整理。	10月2日(日) 晴	10月16日(月) 雨	11月2日(火) 晴時々雨
9月22日(日) 明時々曇り	遺物洗浄, 整理。	遺物整理。	埋め戻し作業立ち合い。
G 47～55～45～60, 面整理。	10月3日(火) 晴	10月17日(火) 晴	S B 17, E B 162 柱根取り上げ。
G 64～68～75～78, 粗縫。	佐藤庄一氏視察, 調査指導を受ける。	10月18日(水) 晴	発掘用具洗浄。
9月23日(水) 曇り	10月4日(木) 小雨のち晴	10月19日(木) 晴	11月1日(月) 雨
G 63～69～73～75, 面整理 S B 21 檢出。	遺物整理。	S E 1 井戸側取り上げ。RW 57	現場資材運搬, 遺物整理。
G 62～66～46～58, 面整理。	10月5日(金) 晴	10月20日(金) 雨のち晴	11月18日(木) 晴のち雨
G 47～55～56～60, 遺構面 3cm 振り下げる, SD 35より RW 37, RP 283～307 檢出。	G 63～69～73～78, 実測, 遺物整理。	特別調査員柏倉亮吉氏今年度出土遺物視察, 指導を受ける。	遺物搬入整理。
9月24日(金) 曇り	10月6日(土) 晴	10月21日(土) 晴	
G 63～69～73～78, 遺構面 3cm 振り下げる。	G 63～69～73～78, 実測, E B 196 振り下げる, S D 35 F 13 振り下げる。	S E 2 西側振り下げる。	
G 62～66～46～58, S D 31・32 完縫, S D 35 振り下げる。	10月7日(日) 晴	10月22日(日) 晴	
9月25日(土) 曇りのち雨	G 63～69～73～78, 実測, E B 193・196・201 振り下げる。	S E 2 井戸側実測, S D 35 振り下げる。	
現地説明会 特別調査員柏倉亮吉・工藤定雄・加藤徳・川崎利夫・手塚孝・県文化課 佐々木洋治・米沢女子短大 連藤祐一郎・北野 遼・川西町文化財保護協会会員等 80名視察。	10月8日(月) 晴	10月23日(月) 晴	
	G 63～69～73～78, 写真撮影, R P 356～359 檢出。	S D 35 振り下げる。	
	10月9日(火) 曙り	10月24日(火) 雨	
	E B 193・196・201 セクション実測, 遺物整理。		



第2図 調査地周辺遺構図

III 発見された遺構

1 建物跡

S B 14 (第2・3図, 第3図版)

G 62～64－55～58, 第II層黒褐色粘質土にて検出されたもので, 東西2間以上(南梁行西より2.15m+2.1m……)×南北3間(西桁行南より2m+1.9m+1.9m)の掘立柱建物跡である。掘り方はほぼ円形で直径40～50cmを示し, E B 130より内墨土師器坏片, 須恵器甕片が出土しているが, 掘り下げは行なっていないため, 出土遺物は破片が2点検出されたにすぎない。柱痕直径10～20cmを測り, 西桁行の柱筋方向は磁北に対して東に4度の傾きを示す。

S B 15 (第2・3図, 第3図版)

G 60～62－54～57, 第II層墨褐色粘質土にて検出されたもので, 東西2間と考えられるが調査地外のため検出していない。梁行は2間で3.5m×南北3間(西桁行南より2m+1.75m+2m)の掘立柱建物跡である。掘り方は円形で直径40cmを示し, 柱痕は直径15cmを測る。西桁行の柱筋方向は磁北である。

S B 16 (第2・4図, 第3図版)

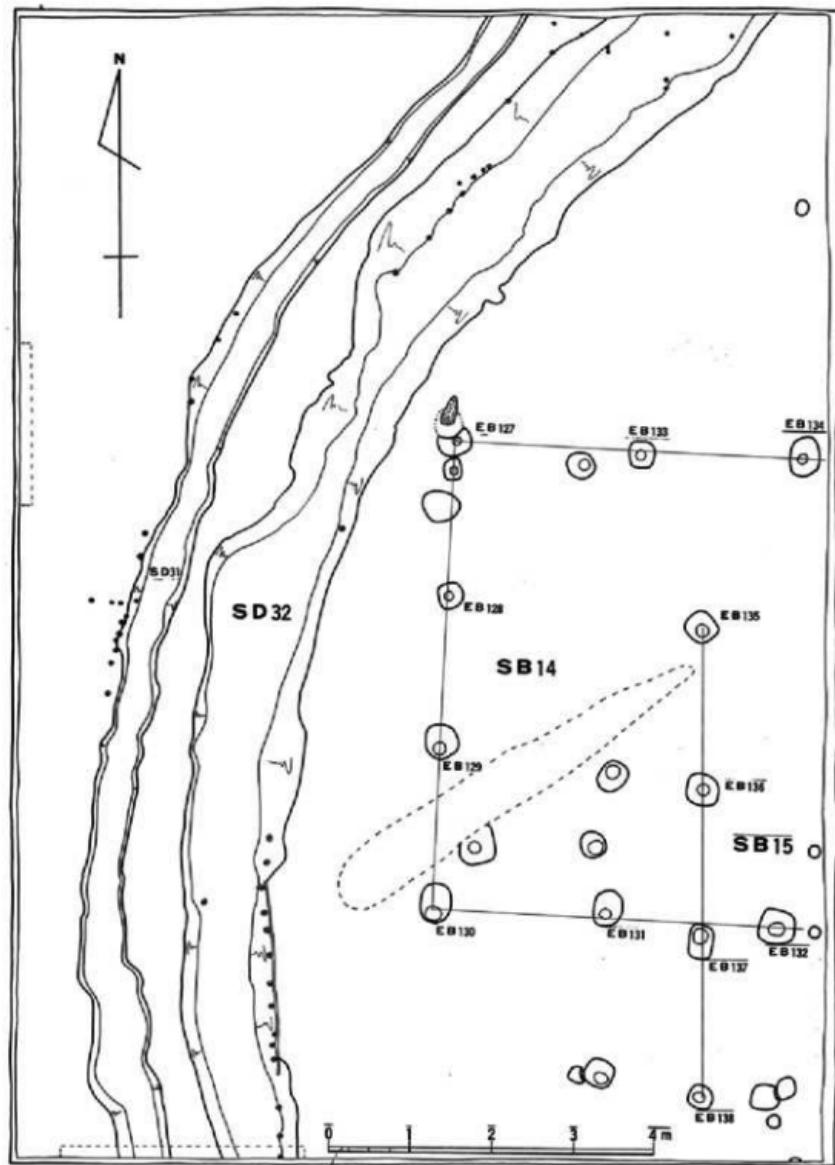
G 57～61－51～61, 第II層墨褐色粘質土にて検出されたもので, 東西3間(南梁行西より2.15m+2.65m+2.3m)×南北5間(西桁行南より1.65m+1.45m+1.25m+1.65m+1.4m)の掘立柱建物跡である。掘り方は南側梁行が70～100cmの隅丸方形で, 衍行が55～70cmの梢円形を示す。この建物跡は東側衍行の掘り方がS B 17・18に切られている。掘り方の掘り下げは行なっていないが遺物は検出されていない。柱痕は25～30cmの丸柱で, E B 143柱痕より「目」の墨書土器が検出している。西桁行の柱筋方向は磁北に対して東に2度の傾きを示す。

S B 17 (第2・4図, 第3図版)

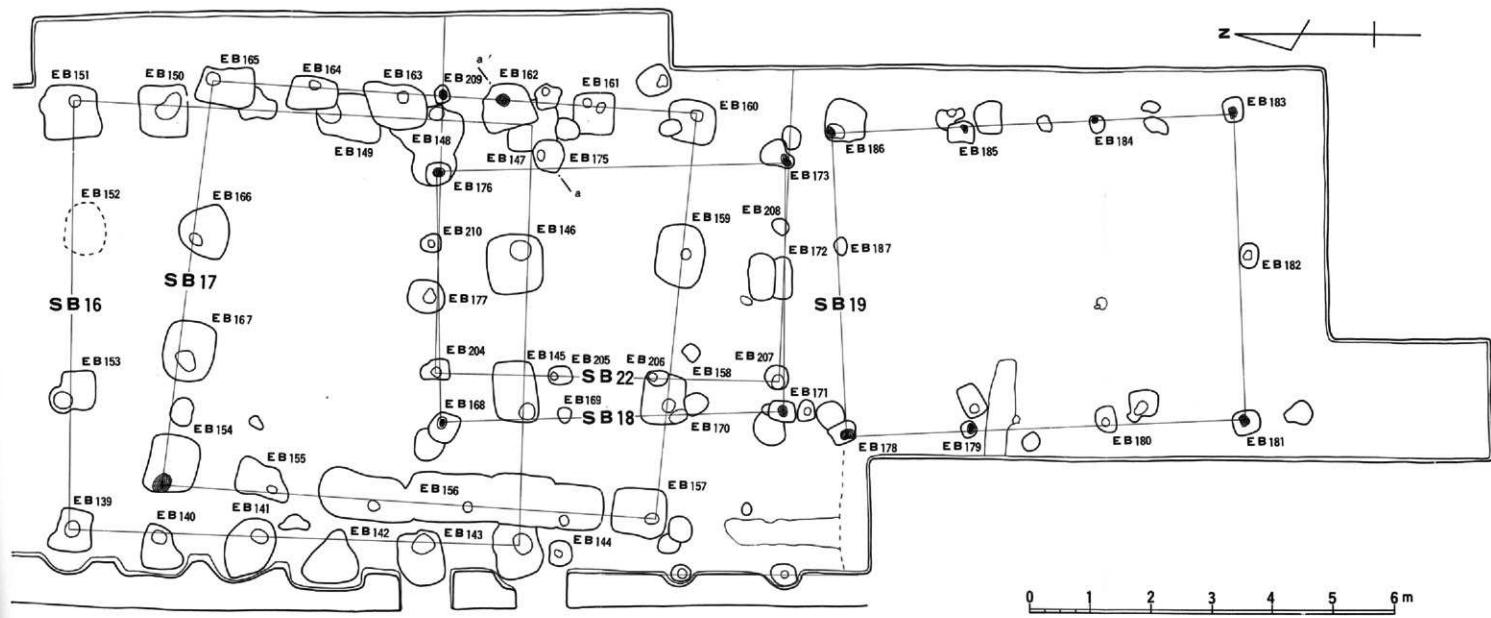
G 56～60－55～60, 第II層より検出されたもので, 東西3間(東梁行西より1.85m+2.5m+2.25m)×南北5間(東衍行南より1.6m+1.6m+1.65m+1.5m+1.65m)の掘立柱建物跡である。掘り方は70～100cmの隅丸方形であるが, 西衍行E B 156は溝状に掘られている。掘方より, 「目」の墨書土器, 須恵器土師器片が検出している。掘り方を1基(E B 162)掘り下げ, 深さは60cmで, 柱痕は丸柱で直径21cmである。柱筋は東衍行で磁北に対し東に5度の傾きを示す。

S B 18 (第2・4図, 第3図版)

G 57～59－54～58, 第II層より検出された四隅の柱痕が現存する掘立柱建物跡で



第3図 SB 14・15掘立柱建物跡



第4図 SB 16・17・18・19・22掘立柱遺物跡

遺構確認面よりつきでた形で検出された。掘り方は四隅が30~50cmの隅丸方形でその他の掘り方は直径20cmの梢円を示し柱痕は検出されない。SB 16・17と重なるものでEB 158をEB 170が切っていることより、SB 17より新しいもので東西2間(南梁行西より2.05m+2.05m)×南北3間(西桁行南より1.7m+1.9m+2m)を示し、柱筋方向は磁北より東に2度の傾きである。

SB 19 (第2・4図、第3図版)

G 57~59-51~54、第II層より検出された東西2間(南梁行西より2.7m+2.35m)×南北3間(西桁行南より2.3m+2.2m+2.1m)の掘立柱建物跡で、SB 18同様四隅の柱根は他の柱根より太く、遺構確認面よりつき出ている。四隅の掘り方は40~45cmの隅丸方形を示し、柱根は15~20cmであり、その他は25~35cmの梢円の掘り方で10~15cmの柱根である。柱根の柱筋は西桁行で磁北より西に2度の傾きをもつものである。

SB 20 (第2・8図)

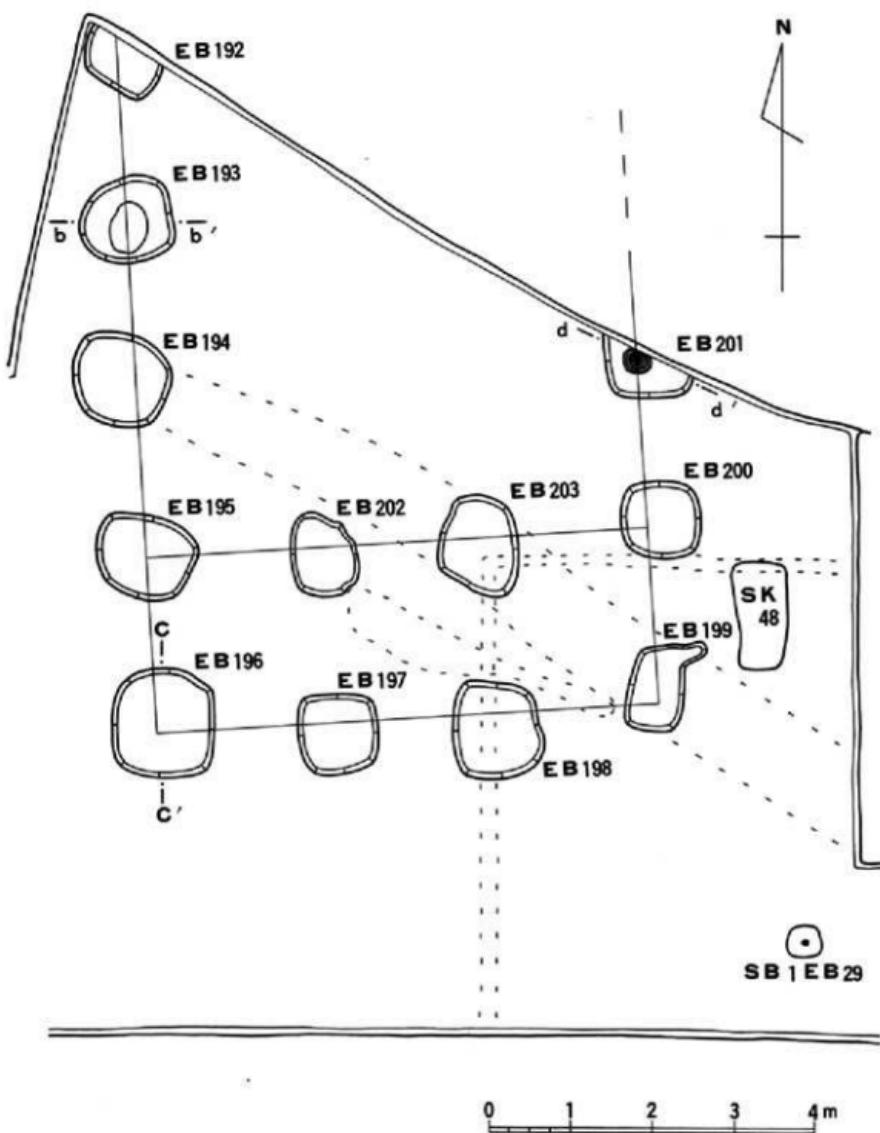
G 47・48-51・52、SD 35第4層下面にて検出された1間×1間(1.75~2.4m)SE 2のおおい屋である。掘り方は直径25~40cmの梢円形で、EB 190は柱のぬきとり痕が検出されるが他の柱痕跡は検出されない。また、掘り方より遺物は確認されなかった。

SB 21 (第2・5図、第4図版)

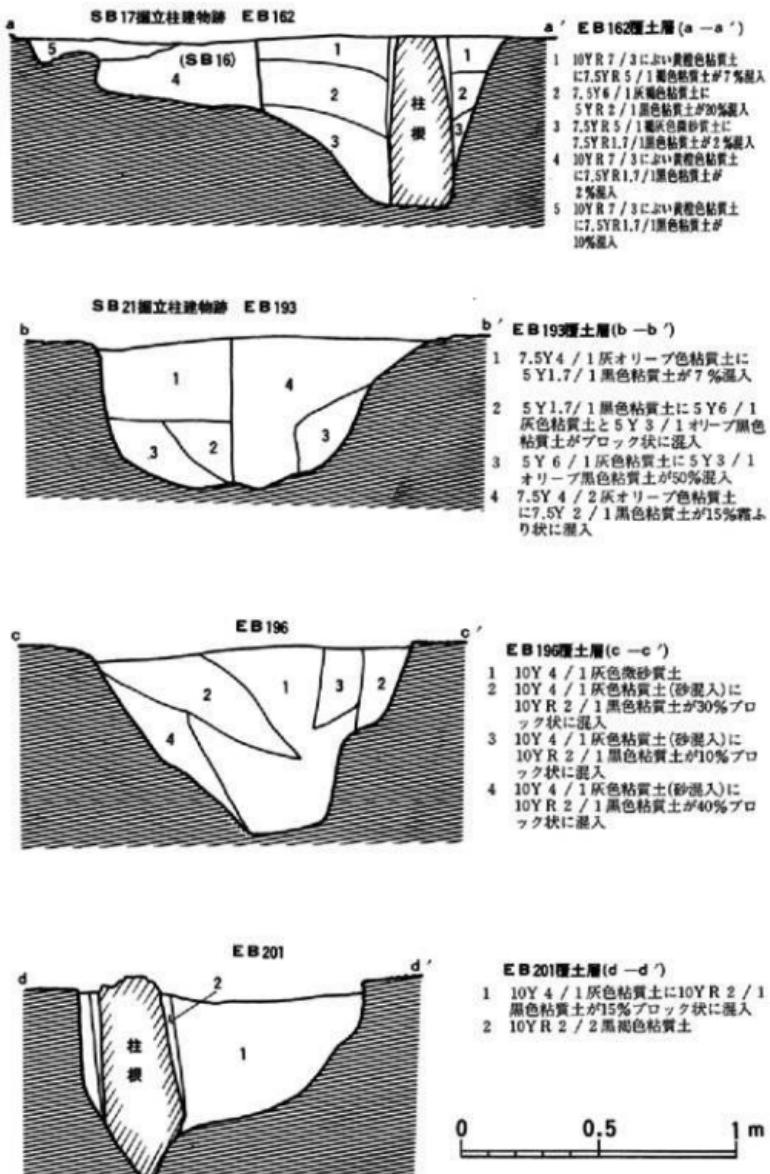
G 65~68-74~78、第II層より検出された東西3間(南梁行西より2m+2m+2m)×南北4間以上(西桁行南より2.1m+2.1m+2.1m+2.1m……)の中柱のある掘立柱建物跡で、掘り方は75~135cmの隅丸方形と梢円形からなり、須恵器、土師器片が出土している。掘り方の深さ70cmでEB 201より太さ25cmの丸柱が検出された。西側桁行掘り方で磁北より西に約5度の傾きを示す。

SB 22 (第2・4図、第3図版)

G 57~59-55~58、第II層より検出された東西2間(北梁行西より2.1m+2.1m)×南北3間(西桁行南より2.1m+1.6m+1.95m)の掘立柱建物跡で柱根及び柱痕は10~15cmの丸柱で掘り方は30~40cmの梢円形をなし、西側桁行の柱痕筋は磁北より1度東に傾を示す。



第5図 SB 21 烟立柱建物跡



第6図 SB 17・21掘り方断面図

2 井戸跡

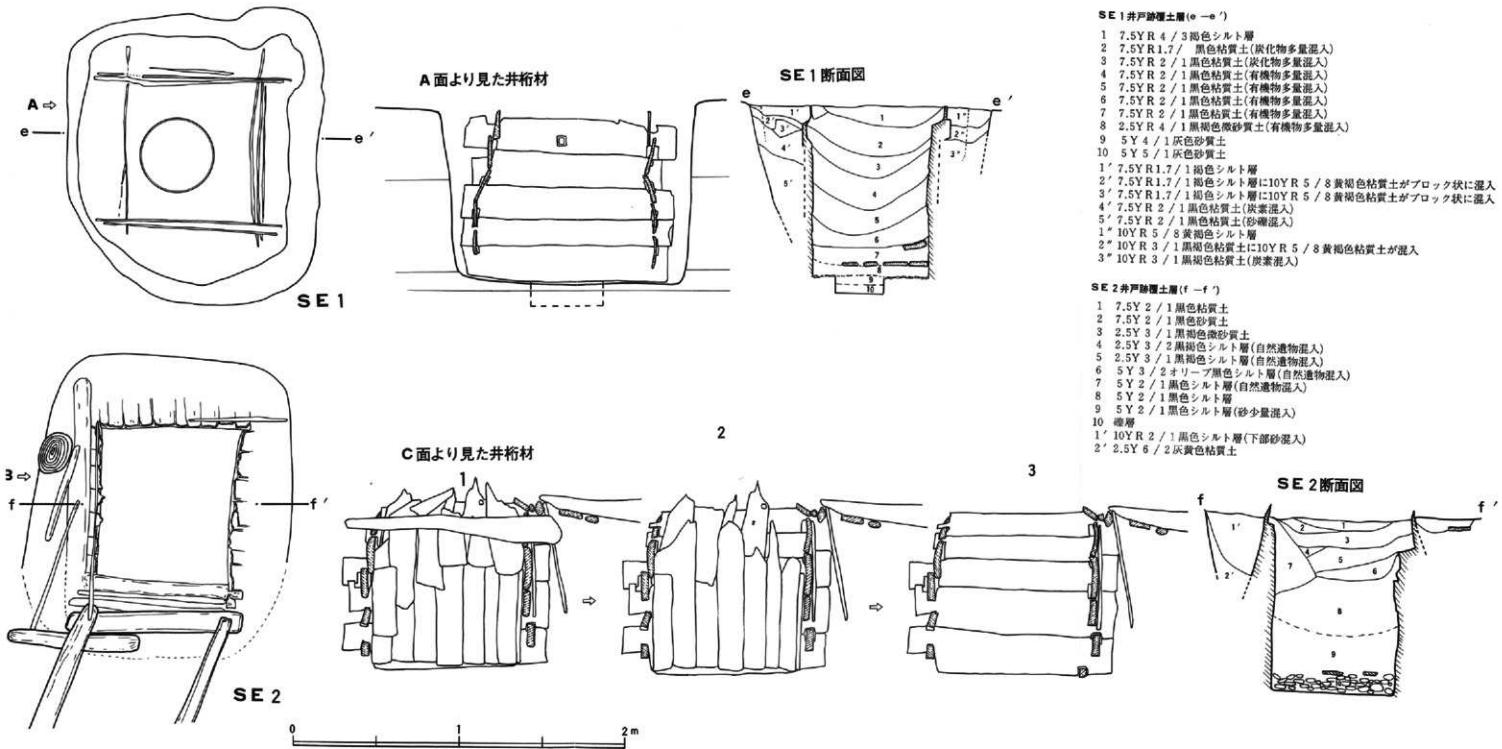
S E 1 第1号井戸（第7・8図、第5図版）

G 51-53, 搢乱層をとりのぞいた第II層でプランを確認されたもので、掘り方が二重に確認され、梢円形を示し直径1.5~1.8mである。井桁内径は東西80cm南北90cm深さ検出面より125cmである。井戸枠材は井戸上部の材と下部の材で厚さが違なり上部材は1~2cm, 下部材は4cmである。また、井戸枠材の巾15~25cm, 長さ120~125cmの板材を井桁に組み、西側で6枚の井桁材が現存し、上部2枚は腐食が著しい。最下部に直径48cm深さ14cmの曲げ物が設置されている。覆土は10層に分けられ自然堆積を示し、3・4層より多量の炭が検出され、炭化米、炭化小豆、種子も同層より検出される。7・8層より板材が出土している。井戸掘り方より板材（RW 22）が検出され、板材の切り込み長さ等より井戸枠材として用いられていたものを補修のおり掘り方に古材を埋めたものと思われる。このことは掘り方が二重にみられ、井桁材も北部材と下部材の違いから考えると納得できるものである。また、井戸枠材上部の板材に4cm四角の穴があるものもあり、他に利用してあったものを転用しているものである。

この井戸跡より900点の土器片が出土し、その内590点が井戸内部より検出されている。井戸内部は、F 1~10まで遺物が検出される。しかし、掘り方より検出される遺物はF 1~5まででありF 6より下層からは遺物は検出されない。墨書き土器として「平」等3点検出された。

S E 2 第2号井戸（第7・8図、第6図版）

G 47-51, SD 35 F 1下面にて縦板の一部及びプランの確認された井桁内径東西1m南北0.8m深さ1mの井戸跡で、掘り方は直径1.5~1.75mの隅丸方形を示し、掘り方のプラン確認は、F 4下である。覆土は10層に分けられ、SD 35の上端直下のため短期間に埋没したものと思われる。井桁につかわれた板材は、西側で5枚の材が現存し、厚さ4cm巾20~25cm長さ約130cmの材を用いられ杉材と考えられる。井桁を囲むように三重の縦板が矢板状に廻らされ、上部に横桟が3方にめぐり東南より水の汲みあげ口と思われる足場板がしっかりとした形で検出された。また、井戸底には、6~15cmの平たい丸石が組み入れられている。井戸内部より繩、木皿、こもろづつろ、が検出され、土器類では、須恵器环片を主体として360点の土器片が出土しているが破片状である。また、これら破片状の土器片には墨痕の確認できるものが25点あり、文字として判読できるものは「平」「目」「至」「太」があげられる。井戸掘り方より須恵器环（RP 390）が1点検出され、この环はロクロ切り離し痕が回転ヘラ切りで、井戸作成年代を考慮するうえで良い資料となる。



第7図 井戸実測・断面図

3 溝 跡

S D 29 (第2・9図, 第2図版)

G 71～73～59～60, 第II層上面にて確認された溝跡で巾 50～100 cm深さ 10～32 cmを測る。覆土は 2～4 層に分けられ、覆土の土質土色より、昭和 56 年検出の S D 24 に続く溝であると考えられる。また、須恵器壺片や土錐が検出された。G 72～60 の地点で S D 37 (非常に浅い溝で遺物は検出されない) に切られている。

S D 30 (第2・9図, 第2図版)

G 71～73～52～53, 第II層上面にて確認された東西に走る溝跡で巾 45～75 cm, 深さ 24～30 cm の U 字状の溝で覆土は 3～8 層に分けられ、遺物は検出されない。SD 34 まで続くものと考えられる。

S D 31～33 (第3図, 第3図版)

G 63～66～46～58, 第II層上面にて確認された溝跡で昭和 54 年まで用水堀 (新堀川) として利用されていたものである。この溝の断面より、S D 33 の溝跡に S D 32・33 が作られたものと思われる。出土遺物は須恵器片と現代陶器片、磁器片が検出された。

S D 35 (第2・8図, 第7図版)

G 47～52～44～53, 第II層上面にて確認された溝跡で S D 1・5・26 と続くものである。巾は約 10 m あり、覆土は 19 層に分けることができた。溝中央部には長さ 5 m 太さ 30 cm の木材 2 本が杭におさえられて検出し、自然の溝を一時木材を土どめにつかわされたと考えられ、溝断面セクションを見ると人工的に埋め込まれた形を示す。また、丸太状木材より溝中央部と岸部とでは遺物にも変化が見られる。溝の深さは 1.2 m で多量の遺物が検出された。この溝は S D 1 と続く溝で S D 1 にも溝中央部に柱状の木材が検出されており、遺物に変化が見られた。4 月のボーリング探査にて S D 5 より北北東巾 10～12 m で G 45～105, G 65～150 の方向に進むことが確認できた。

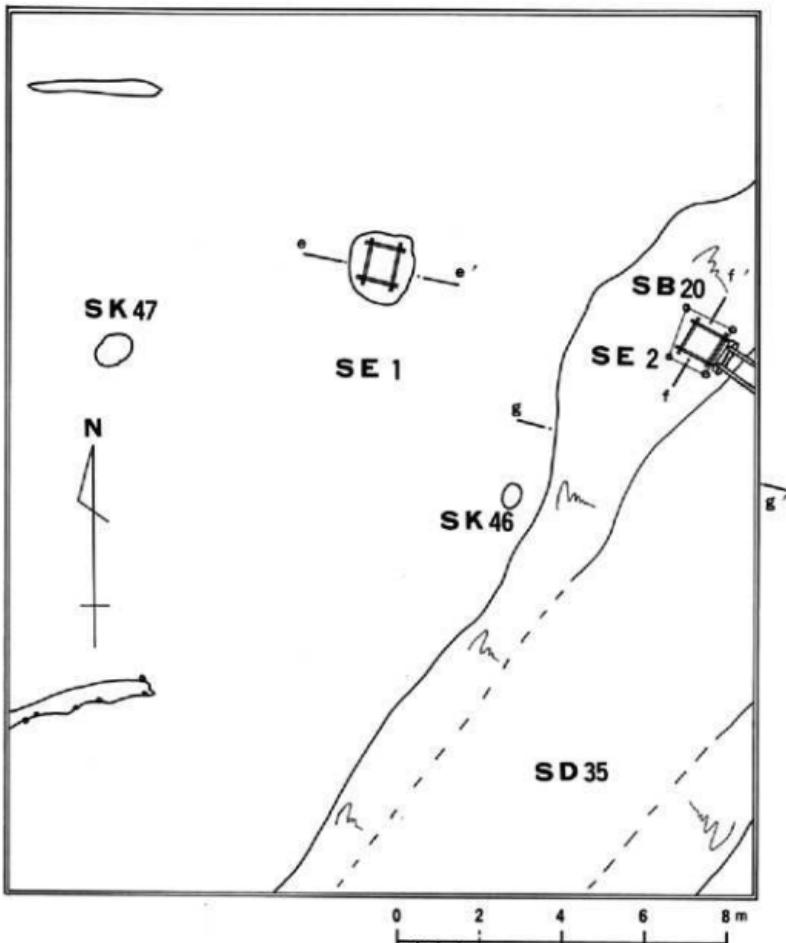
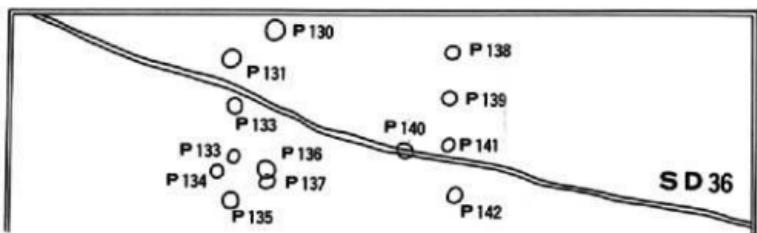
S D 35 より検出された土器類は壺片を主体として約 4,800 点、木質遺物は 150 点を数え墨書き器では、不明文字、墨痕のあるものを入れると 200 点数えることができる。木製品は、横樋・盆・横樋・曲け物・漆器・木椀・定規等をあげることができる。

S D 36 (第8図)

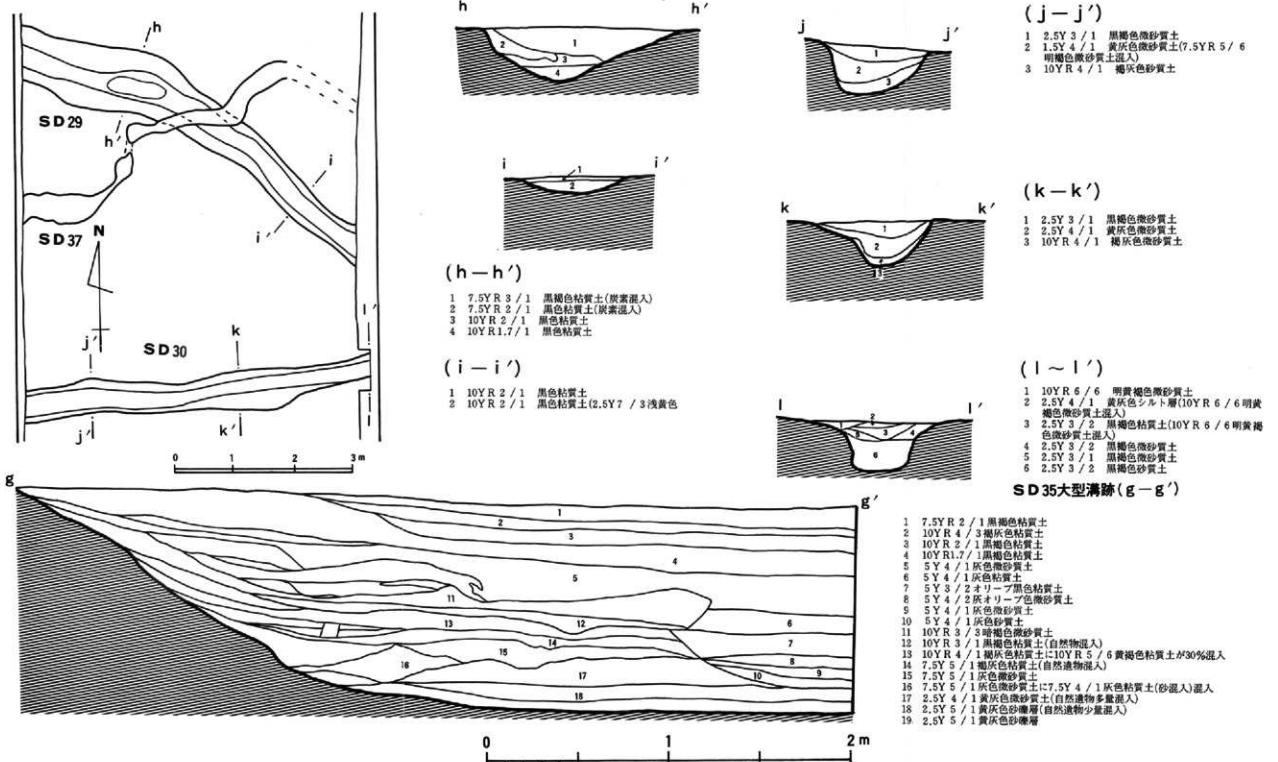
G 47～55～58～60, 第II層上面で確認されるもので昭和 54 年度緊急発掘調査において排水路として用いた溝跡である。

S D 38 (第2図)

G 65～66～46～50, 第II層上面で検出された溝跡で、巾 60～100 cm 深さ 10 cm を示し、覆土の土質、土色より S D 24・29 に続く溝である。須恵器壺片が出土している。



第8図 G 47～55 - 56～60 実測図



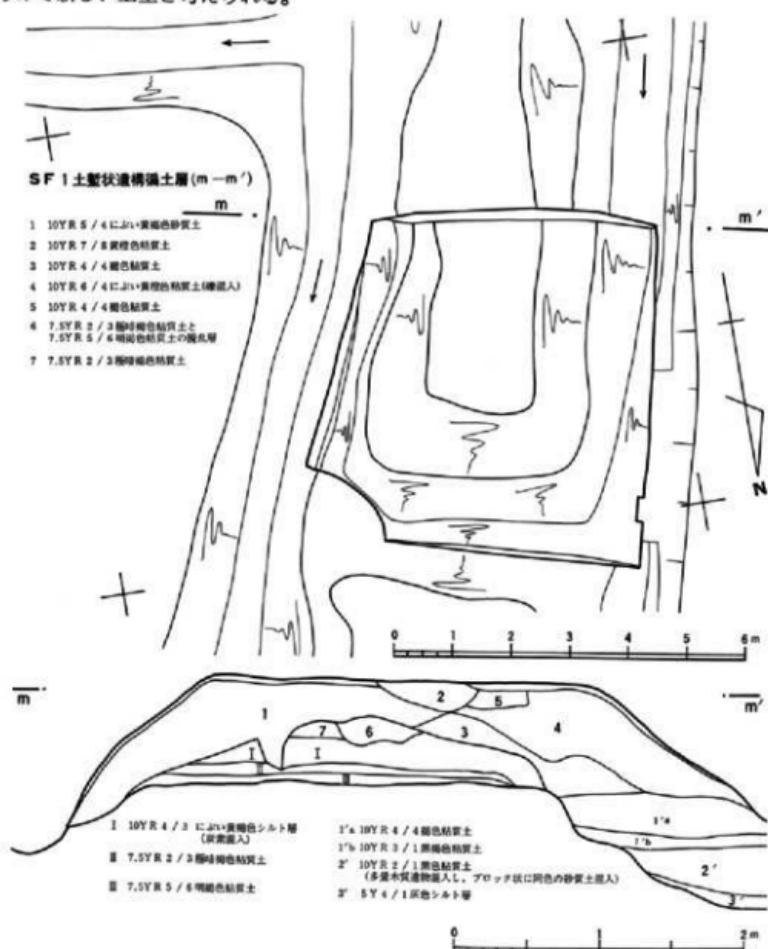
第9図 溝跡実測・断面図

4 その他の遺構

S F 1 (第10図, 第2図版)

G 134 ~ 136 - 78 ~ 82, 調査を行なったものである。遺跡中心部と考えられる地点より西へ 150 m の所に現存する土壘で高さ 60 ~ 80 cm 長さ 80 m を測るもので傾きは磁北より東に 11 度を示す。

断面セクションより、きれいな版築状になっておらず、覆土からの現代陶器の検出などからみて新しい土壘と考えられる。



第10図 土壘状遺構実測

IV 考 察

第3次調査で検出した主な遺構は、掘立柱建物跡9棟、井戸跡2基をはじめ溝状遺構ピット群などであるが、昭和54年度の圃場整備により表土が擾乱されており、擾乱層を取り除いた段階で遺構プランを把握することが可能ということになる。このため層位的に遺構の年代がつかめない状況である。しかし、今回の調査で一辺1m以上の掘り方をもつ建物跡が発見され、また、掘り方に切り合いがみられることより遺構年代が認知できる。当遺跡では、比較的古い建物の特徴として、前年度検出したS B 12も同じであったが、梁行の間尺が広く、桁行の間尺が狭いもので、掘り方も梁行が大きく隅丸方形に作られており、桁行の掘り方は橿円形状になるのに対して、掘り方の切り合いより新しい建物跡は梁行桁行の間尺はあまり差がなく、掘り方も小さくなるようである。また四隅の柱は太く中間になる柱及び掘り方は小さく柱は細いものであった。

井戸跡は2基検出され、第1号井戸跡は材を井桁に組まれた井戸枠であり2号井戸は井桁に組まれた外側を矢板状に3重に囲み横桟でおさえている。出土遺物も違なることより使用年代が異なる。

昭和54年度に木簡が発見された溝をボーリング探査にて200mほど確認できた。また溝の断面及び堆積状態を長時間かけて調査できたことで、一時期に溝を人為的に溝巾を狭めていることが確認されている。遺物も多量に検出され、二面硯、横瓶等が検出し墨書き器も245点検出され、出土層位により文字及び坏形態が違っている。今回の調査で遺跡の西側区画線と考えられた土壘状遺構(S F 1)は比較的新しいもので当遺跡とはかかわりが少ないものと考えられる。試掘調査においても土壘西側の地域で遺構遺物が発見されたことより、西側の区画線を引く場合、30mほど西側に拡大されよう。

遺構遺物の時期等の考察及び墨書き器、実測図等は整理後に報告する計画である。今年度の調査において、遺構プランの検出を主な目的とし、遺構保存のため、遺構の掘り下げができるだけおさえたかたちとなった。今回の概報は遺構の提示にとどめ、今まで4年間の調査の考察等を本報告書にまとめるところとする。

図 版



発掘前風景



発掘風景



S F 1
土壠状遺跡

第2図版

S F 1 断面図



G 47~55 -
55 • 56
北より



SD 29 • 30 • 37
プラン確認南より





S B 14・15
掘立柱建物跡



S B 16～19
プラン確認

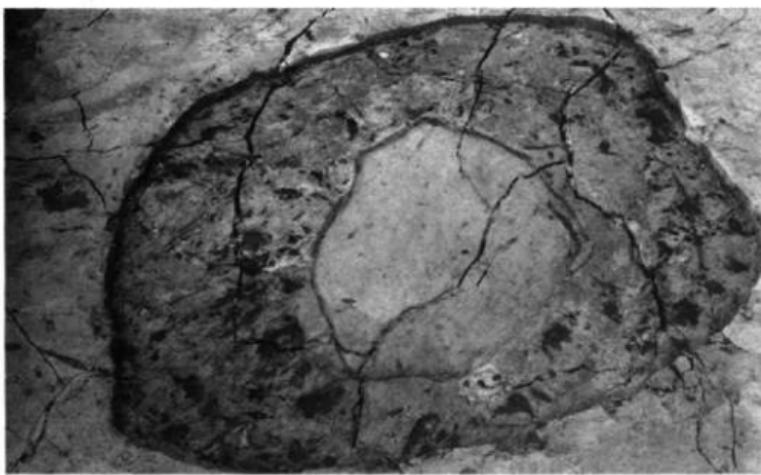


S B 16～19
掘立柱建物跡

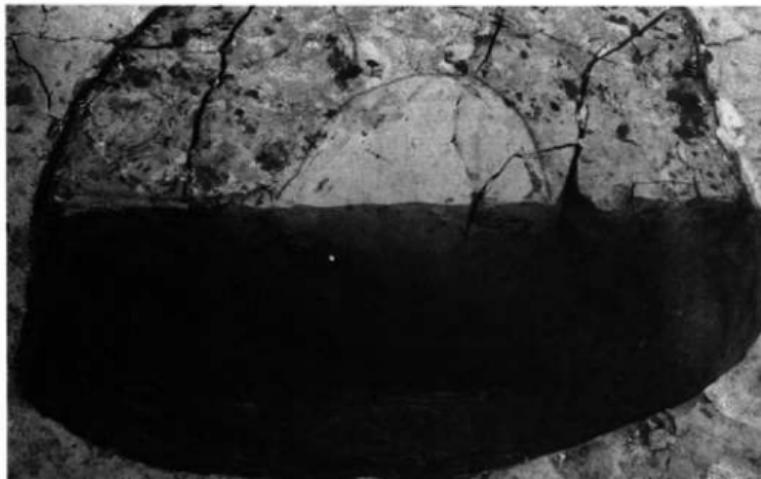
S B 21
掘立建物跡
南より

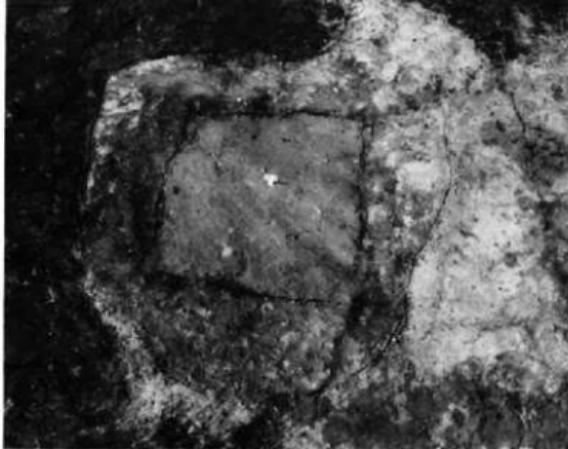


E B 193



E B 193 断面





S E 2

プラン確認



S E 2 井 桅



S E 2 覆土断面





SD 35
土製品出土状況



SD 35
木質遺物出土状況



SD 35
覆土セクション



輝と愛と丘のある町

道伝遺跡発掘調査報告書

昭和 58 年 3 月 10 日 印刷

昭和 58 年 3 月 15 日 発行

発行 川西町教育委員会社会教育課

印刷 よねざわ印刷
